

体感。感動。感謝。NBUのCOC事業をお伝えします。

文部科学省
地(知)の拠点



日本文理大学COC事業

おおいた、つくりびと

coc-nbu.jp

November 2016 Nippon Bunri University, COC MAGAZINE

「シン・スリング」
(片麻痺患者用
垂脱臼防止装置)



「靴を折る」(片麻痺患者用簡易靴)



「ふんばりやさん」
(四点杖)

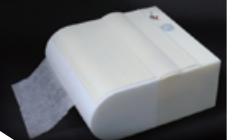


Hallow | Happiness Long Life
Open-innovation
Workshop

産官学民医連携

生きがいのある暮らしを創る
オープンイノベーションワークショップ

「WetXless」
(自動ウェット
ティッシュケース)



「ウルトラC」
(ネックレス装着アシスト)



生きがいのある、 未来の社会を創る「モノ」。

超高齢化社会における暮らしの「質」の向上を目指して、
プロジェクト型ワークショップ「Hallow」開催。

No. **11**

キラリびと

『おおいた、つくりびと』で活躍する学生、
教職員、地域の皆さんにインタビュー。

11



工学部
情報メディア学科4年

牧 佑樹

Q. 「生きがいのある暮らしを創るオープン
ングイノベーションワークショップ」へ
の参加のきっかけは？

A. 大学生活も終わりに近づき、自分はいろ
んな人に助けられてここまで来たことを実感す
る機会が増えました。だからこそ、自分も人のた
めになるもの、人の日常生活を支えるモノをつ
くることができないだろうかと考えるようになりました。そんな時に体が不自由な方の生活を手
助けする器具を開発するプロジェクトがあると
知り、自分も微力ながら障害者の方のストレス
を感じる要因を少しでも軽減することができれ
ばと思い、このプロジェクトに参加しました。

Q. 今回の活動を振り返って。

A. 今回の活動でいちばん驚いたのは、社会
人の方の柔軟性です。知識だけでなく、自分の
専門性を活かすスキルが豊富だと思いました。
最初は、大人の皆さんにどのように接した

ら良いのかわからず不安だったのですが、学
生でも意見を言いやすい雰囲気をつくって
いただいたので助かりました。また、今回の
活動を通じて様々な発見をすることができま
した。創造した器具の長所や利点だけでなく、
マイナス面や課題点もたくさん見つけられ
ましたが、どちらもつくらなければ分からな
かったことなので、本当に貴重な経験にな
ったと思います。これで終わるのではなく、
社会人になっても、今回学んだことを何らか
のカたちで活かしていきたいと思っています。

and more...



PICK UP! COCプロジェクト

2016.08.01 街のPRについて～チングワークの成果

“本当にマシッソヨ”と笑い声が飛び交う。
初顔合わせに覚えたばかりの韓国語、そして
初めての韓国料理づくり。でも、皆ずっと笑っ
ている。箸が転んでもおかしい年頃の女子
高生が仲間に入ったことで、空気が踊ってい
る。高校生、大学生、留学生、地域の方々、
総勢50名が公民館の調理室に集まり、トッ
ポギ、チヂミ、チャプチェ等のレシピをもとに、
食文化や韓流ドラマの話題に花が咲く。料
理の美味しさに、皆の気持ちが近づく。

そのあと、「豊後大野市のPRについて」
のチングワークが行われた。留学生の意見
に前のめりになって耳を傾ける学生たち。

チームごとの発表は、大学生の役割。慣れた
プレゼンテーションに拍手喝采。大学生が
照れる。「先生、今度一緒に、大学で授業受
けさせてくれませんか〜?」と参加した女子高
生から声が上がった。少しでも自分の価値を
高める努力を惜みず、地域に貢献したいと
願う大人の姿に、若者が魅かれる。そして大
人は、若者から希望をもらう。

※1「チング」…友達 ※2「マシッソヨ」…おいしい

まだまだあります！
大分県内をステージに進行中の
プロジェクトが盛りだくさん。

- 若者が感じる祭りの醍醐味
- 初夏のエネルギーで育つ“感じる心”
- 現代版 あぜつくり

etc...

韓国料理教室in豊後大野



くわしくはNBUの
COC特設サイト

coc-nbu.jp



文理科学
地(知)の拠点

NBU日本文理大学

〒870-0397 大分県大分市一木1727
TEL.097-592-1600(代表)
http://www.nbu.ac.jp

大学院 工学研究科

工学部

経営経済学部

□環境情報学専攻

□航空宇宙工学科

□情報メディア学科

□経営経済学科

□航空電子機械工学専攻

□機械電気工学科

□建築学科